

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 1 区分
【発行日】平成 17 年 9 月 8 日 (2005.9.8)

【公開番号】特開 2004-286469 (P2004-286469A)
【公開日】平成 16 年 10 月 14 日 (2004.10.14)
【年通号数】公開・登録公報 2004-040
【出願番号】特願 2003-75781 (P2003-75781)
【国際特許分類第 7 版】

G 0 1 N 35/10

G 0 1 N 35/02

【F I】

G 0 1 N 35/06 A

G 0 1 N 35/02 F

【手続補正書】
【提出日】平成 17 年 3 月 16 日 (2005.3.16)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

検体およびその測定に必要な乾式分析素子を搭載するサンプルトレイと、検体を前記乾式分析素子に点着する点着機構とを備え、前記サンプルトレイに搭載した検体を前記点着機構により乾式分析素子に点着し成分濃度を測定する自動分析装置において、

前記検体を乾式分析素子に自動的に点着し測定する自動測定モードに加え、前記検体を乾式分析素子に手操作で点着し測定する手動測定モードを備え、

手動測定モードになったとき、自動測定モードで使用する前記点着機構が点着部の上方から離れて手動操作の妨げにならない待避位置へ移動するよう構成されてなることを特徴とする自動分析装置。

【請求項 2】

前記点着機構が点着部の上方位位置から側方のサンプルトレイ上の待避位置へ移動することを特徴とする請求項 1 に記載の自動分析装置。

【請求項 3】

検体およびその測定に必要な乾式分析素子並びに消耗品を搭載するサンプルトレイと、検体を前記乾式分析素子に点着する点着機構とを備え、前記サンプルトレイに搭載した検体を前記点着機構により乾式分析素子に点着し成分濃度を測定する自動分析装置において、

前記サンプルトレイに前記消耗品を搭載する消耗品搭載モードを備え、この消耗品搭載モードが選択されたとき、前記サンプルトレイの消耗品搭載部が機器の開放部位に移動するよう構成されてなることを特徴とする自動分析装置。

【請求項 4】

前記消耗品搭載部が前面側開放部位に移動することを特徴とする請求項 3 に記載の自動分析装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 1 3
【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 3 】

【課題を解決するための手段】

本発明の自動分析装置は、検体およびその測定に必要な乾式分析素子を搭載するサンプルトレイと、検体を前記乾式分析素子に点着する点着機構を備え、前記サンプルトレイに搭載した検体を前記点着機構により乾式分析素子に点着し成分濃度を測定する自動分析装置において、

前記検体を乾式分析素子に自動的に点着し測定する自動測定モードに加え、前記検体を乾式分析素子に手操作で点着し測定する手動測定モードを備え、手動測定モードになったとき、自動測定モードで使用する前記点着機構が点着部の上方から離れて手動操作の妨げにならない待避位置へ移動するよう構成されてなることを特徴とするものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 5 】

また、本発明の他の自動分析装置は、検体およびその測定に必要な乾式分析素子並びに消耗品を搭載するサンプルトレイと、検体を前記乾式分析素子に点着する点着機構とを備え、前記サンプルトレイに搭載した検体を前記点着機構により乾式分析素子に点着し成分濃度を測定する自動分析装置において、

前記サンプルトレイに前記消耗品を搭載する消耗品搭載モードを備え、この消耗品搭載モードが選択されたとき、前記サンプルトレイの消耗品搭載部が機器の開放部位に移動するよう構成されてなることを特徴とするものである。